

梶下選手勝利！

編集:山本広報・尾形強化スタッフ
平成27年7月21日(火)

【タイムスケジュール】

8時	ホテル出発
8時半	練習
9時半	試合開始
18時20分	ホテル着
18時20分	クールダウン
19時	夕食

【スタッフの所感】

今朝も朝の練習は充実したアップでした。

今日は、昨日よりもまた一段と風が強く、どの選手も苦労していました。風のため、疲労も激しいと思います。

一番手は鈴木選手。

鈴木選手は試合の入り方が相手選手と比べて固さがあり、よくなかったですが、サービスダッシュをしたり、得意のフォアでコースをついたり随所で良いプレイがありました。

ただ残念なことに、相手選手のコースを打ち分けたサービスや、先にネットにつかれたり、丁寧にコースをつかれたりして、中々ポイントを取れませんでした。

梶下選手のシングルスは、強風と初戦ということもあり、自分の調子を確かめながら試合を運んでいたような気がします。なので、1セット目は競りましたが、タイブレークで1セット目をとったことで、相手にプレッシャーを与えました。肩を傷めているので、リターンからの展開は問題なさそうでしたが、サービスからの展開をよく考えていました。

男子ダブルスは大切なところでのミスが多く、お互いのチームが同じような展開でポイントをとっていました。ロシアチームの一人のサービスがよく、常にキープしていました。その差がゲーム数にそのまま反映されています。

ミックスダブルスは練習不足のせいか、意志の疎通が図れなかったように思いました。

【試合結果】

男子シングルス2回戦

- 梶下怜紀 7-6(2).6-2 ●John Lui(オーストラリア)
●鈴木裕将 1-6.0-6 ○Glen Flindell(オーストラリア)

男子ダブルス2回戦

- 梶下怜紀&鈴木裕将 4-6.4-6 ○Sergey Lapikov & Egor Panyushkin(ロシア)

ミックスダブルス1回戦

- 榛地 英征&山口華恵 1-6.2-6 ○Jack Clifton & Bethany Brookes(イギリス)

JAPAN SPORT

COUNCIL

日本スポーツ振興センター

競技力向上事業

【選手レポート】

報告:①種目 ②対戦相手 ③試合結果 ④試合内容

コメント:①頑張ったこと ②反省 ③今後への課題

★梶下怜紀

報告

①シングルス、ダブルス

②シングルス John Lui(オーストラリア)

ダブルス Lapikov Sergey Panyushkin Egor(ロシア)

③シングルス 7-6(2)、6-2、ダブルス 4-6、4-6

コメント

(シングルス)

今日は風が非常に強く、相手の球もあまり速くなかったため、ボールが風に流され、序盤から非常に打ちづらく我慢の試合であった。1stをタイブレークで取り、流れを乗ったままボールをしっかりとコントロールし試合を進めていた点がよかったです。

(ダブルス)

全体的にアンフォースドエラーが多く、ミスでポイントを取っていくような試合になった点が

よくなかった。相手の球が速かったが、その球を低くコントロールし、打たれないように

返球していくべきまた違った展開ができたかもしれない。今後は、ミスを極力減らし、ラリーの中から展開してポイントを取りにいけるようにしたいと感じた。

★鈴木裕将

報告

①シングルス、ダブルス

②シングルス Glen Flindell(オーストラリア)

ダブルス Lapikov Sergey Panyushkin Egor(ロシア)

③シングルス1-6,0-6 ダブルス4-6,4-6

④(シングルス)

相手はビッグサーバー。際どいコースへ積極的に入れてきた。返球が甘く、ネットプレーから勝負が多い試合だった。

(ダブルス)

第3シードの選手がスピードが速くレベル高いプレーで対応しづらく、もう一人のペアを集中攻撃して隙を狙いミスを誘って決める試合だった。

コメント

②風が強く、ボールが流されて軌道を読むのが難しくインパクトが弱いボールになった。また、ミスが目立ち修正しようと集中したが難しかった。相手の速いサーブと際どいコースへの対応に慣れなかった。

③両手バックハンドの軸をしっかりと作って打ち込めるようにする。

★榛地英征

報告

①ミックスダブルス

②Jack Clifton、Bethany Brookes(イギリス)

③0-2(1-6,2-6)

④スコア以上に接戦となり、こちらは相手の女子を狙い、向こうは山口さんを狙うという内容でした。

お互い、女性がどこまで男性のボールに対応できるか、そこが大きな鍵になったと思います。

コメント

①試合序盤に様子を見て、2バックに変更し、対応力が広がった。

また、オーストラリアンフォーメーションが効果的にハマリ、ポイントを稼ぐことができた。

②勝つチャンスが要所にあっただけにそれを逃してしまったのが残念。ゲームポイントで自分たちのパターンを実行できなかったのが反省。

③ミックスのペア同士でしっかりと自分達の勝ちパターンをたくさん作っておく必要があります。

それには試合をたくさんこなして見つけていくことが必要になります。

★山口華恵

報告

- ①ミックスダブルス
- ②Jack Clifton、Bethany Brookes(イギリス)
- ③0-2(1-6,2-6)
- ④相手は二人とも長身で、お互い女性をどう狙うかという試合内容だった。女性からミスを誘い出すかという点がポイントでした。踏ん張りデュースが多く、思った以上の接戦で苦しい場面が多かった。

コメント

- ①フォーメーション、2バックなど様々な戦術パターンを工夫し、相手を混乱させたこと。
リターンからの展開では、縦ロブからの攻め、クロスリターンからの攻めたりするなど効果的なパターンを使ってポイントを稼いだこと。
- ②出だしで自分たちからミスをしてしまい、プレッシャーを掛けられなかつたこと。会場の雰囲気は完全にアウェーで気圧されるような感覚になり、単純なミスが相次いだことが反省。
- ③ミックスダブルスの特有の戦術を熟知しておかない、試合運びがとても難しくなると実感した。
試合慣れは勿論、各自の役割を明確にし、どのような戦い方をすればいいのかという考えを持つ必要がある。



梶下 vs John Lui(オーストラリア)



榛地・山口 vs Jack Clifton・Bethany Brookes(イギリス)



梶下・鈴木 vs Lapikov Sergey・Panyushkin Egor(ロシア)



梶下・鈴木ペア